

資料配付の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会
2. 国土交通記者会
3. 国土交通省建設専門紙記者会

日時：平成29年7月21日 14時同時配付



平成29年7月21日
国立研究開発法人土木研究所

橋の長寿命化に向けて研究を加速

～日本初！実橋を使った破壊までの載荷実験～

土木研究所は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の研究プロジェクト「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」に参画しています。同プロジェクトでは、「国内重要インフラの高い維持管理水準での維持」、「魅力ある継続的な維持管理市場の創造」、「海外展開の礎を築くこと」を目標に研究開発が展開されています。

その中で、土木研究所では、点検・モニタリング・診断技術の研究開発を行っており、このたび、その研究開発の一環として、既設橋梁の耐荷力評価技術の確立に向けた実橋の耐荷力試験を行いますので、下記のとおり報道関係者の皆様に公開します。なお、本試験で行う実橋での対象主桁の破壊まで想定した耐荷力試験は日本初となります。

記

1. 日 時 平成29年7月26日（水） 9：00～14：00（予定）

平成29年7月27日（木） 9：00～16：00（予定）

2. 場 所 苫前郡羽幌町字築別

3. 実験概要 別紙のとおり

4. 対 象 報道機関

取材を希望される報道機関の方は、前日までにメールまたはファックスでお申し込みください。

問い合わせ先

国立研究開発法人土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ

上席研究員 石田 雅博

主任研究員 大島 義信

研究員 吉田 英二

TEL 029-879-6773

FAX 029-879-6739

e-mail caesar@pwri.go.jp

国立研究開発法人土木研究所 構造物メンテナンス研究センター
橋梁構造研究グループ 公開実験担当者 宛

FAX 029-879-6773

e-mail caesar@pwri.go.jp

申し込み用紙

1. 御社名 : _____

2. ご所属 : _____

3. お名前 : _____

4. 人数 : _____ 人

5. ご連絡先 : 電話番号 _____
e-mail _____

旧築別橋耐荷力試験

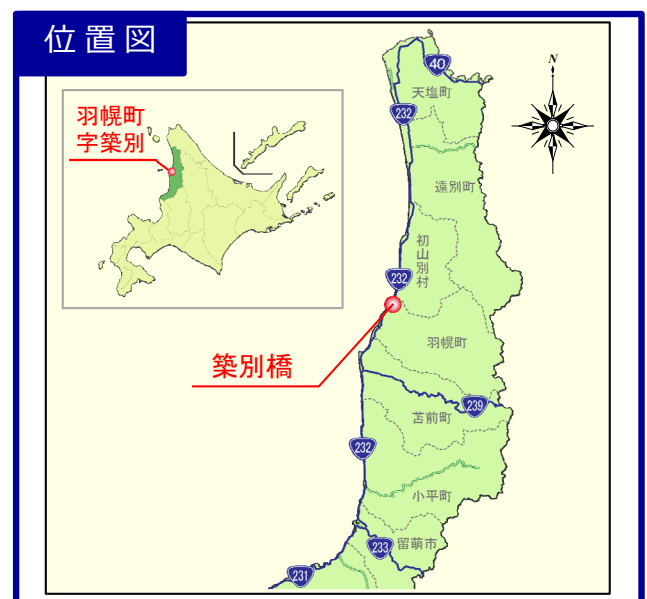
1. 実験概要

PC鋼材の腐食等の損傷を有する既設PC橋の耐荷力評価を行うため、撤去予定の実橋（旧築別橋）にて、対象主桁の破壊までを想定した耐荷力試験を行います。

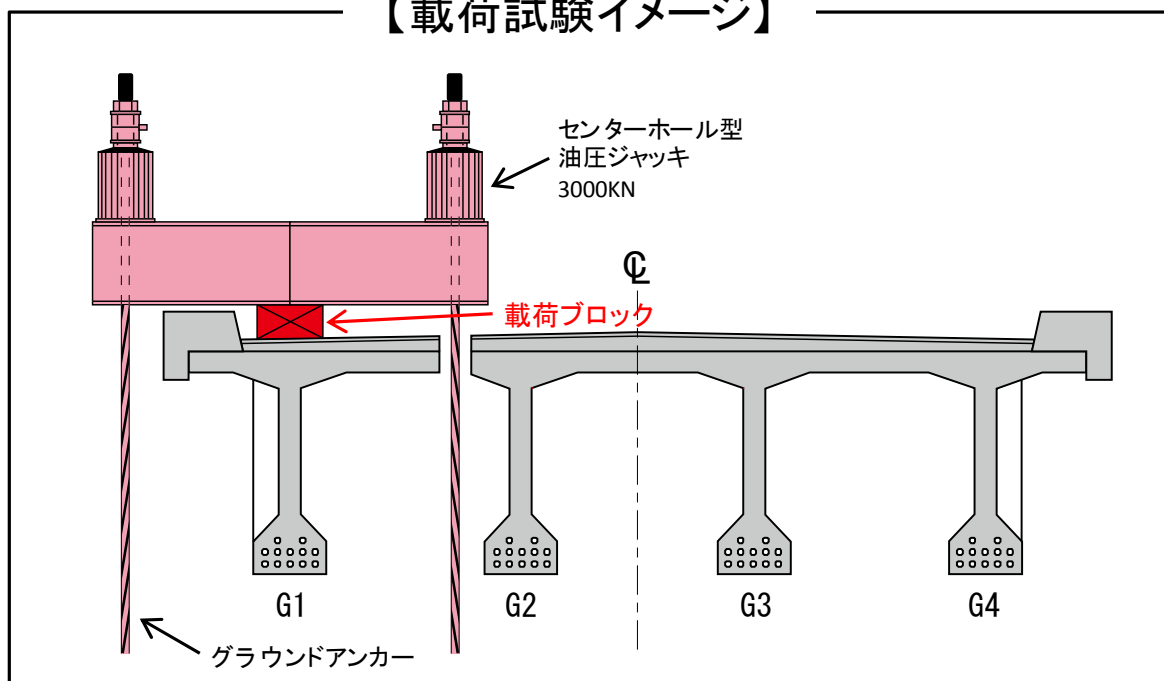
載荷試験は、A1-P1間のG1桁の支間中央にて、2台の3,000kNセンターホール型油圧ジャッキを載荷梁に載荷し、静的載荷により主桁が破壊に至るまで載荷します。試験終了の判断は、載荷点直下の主桁上フランジの圧壊とします。ただし試験中に、想定外の破壊が予想される場合には、試験を中断する場合があります。

橋梁概要(旧築別橋)

項目	内容
架設年	1960年(昭和35年10月)
橋梁規格	TL-20(1等橋)
橋長	L=180.3
幅員	W=6.0m(0.25+5.50+0.25)
上部工形式	単純PCポステンT桁5連
下部工形式	半重力式橋台 N=2基 壁式橋脚 N=4基(RC構造)
基礎工形式	オープンケーソン基礎 N=6基



【載荷試験イメージ】



2. 日時

載荷試験は7月26、27日の2日間を予定しています。詳細については下記のとおりです。

【7月26日（水）】

2回程度の載荷除荷を行います。この間、除荷後において、適宜モニタリングを行います。

8：30 事前説明

9：00 試験開始

14：00 試験終了

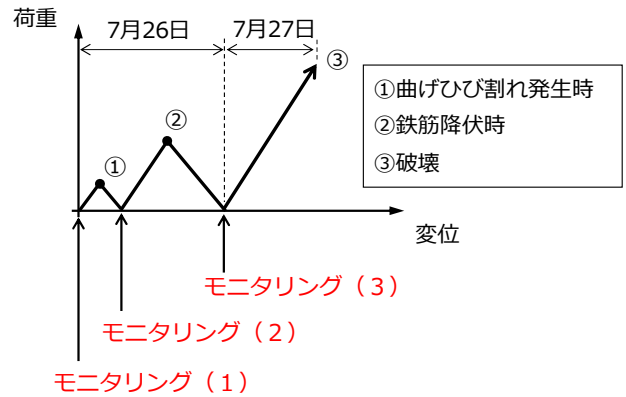
【7月27日（木）】

供試体が破壊するまで載荷を行います。

8：30 事前説明

9：00 試験開始

16：00 試験終了

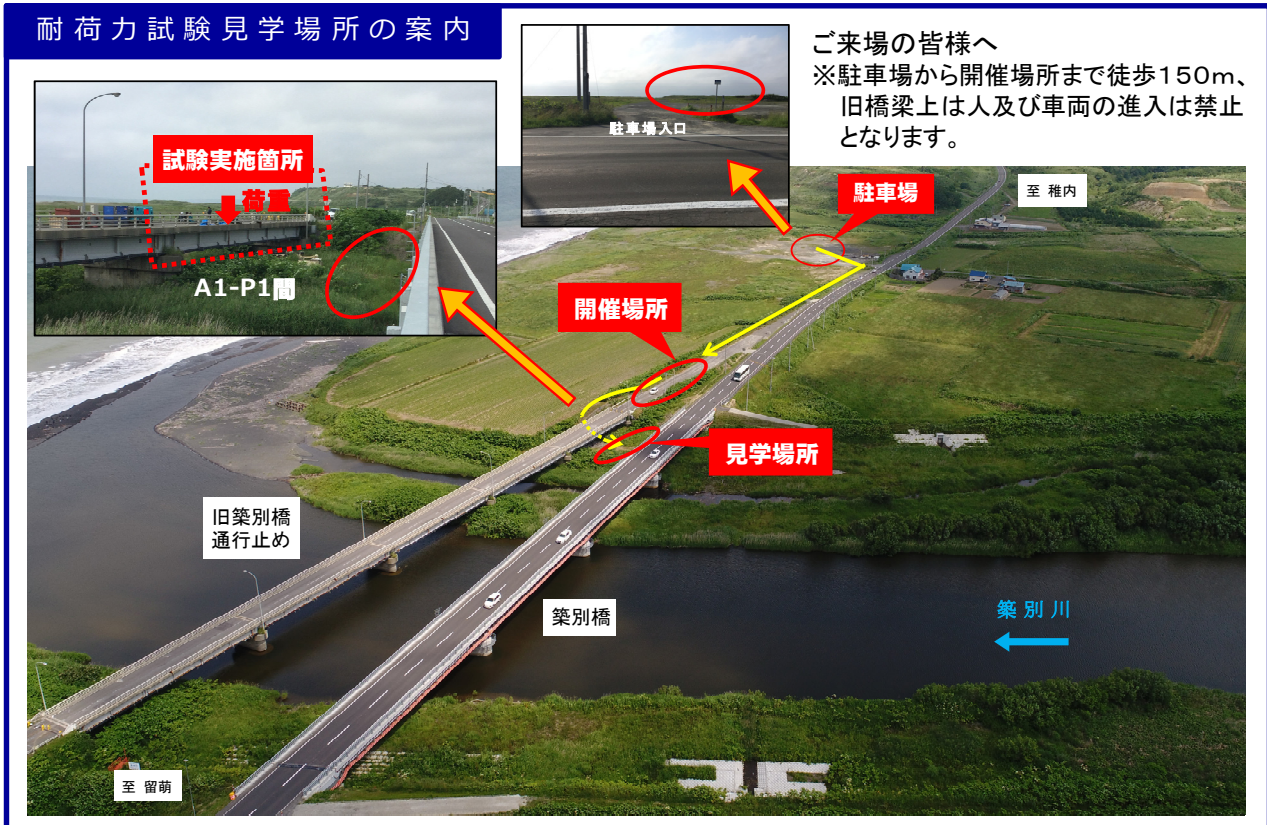


試験方法の概要

3. 場所

北海道苫前郡羽幌町築別 旧築別橋 (44° 25 '01.7"N , 141° 44' 22.6"E)

耐力試験見学場所の案内



土木研究所構造物メンテナンス研究センターでは、総合科学技術・イノベーション会議のSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」（管理法人：JST）に参画しています。その中で、東京大学、理化学研究所との連携の下、「異分野融合によるイノベーティブメンテナンス技術の開発」を平成26年度から5カ年の計画で実施しています。

・SIP についてはこちら →<http://www.jst.go.jp/sip/k07.html>